



名古屋いのちの電話

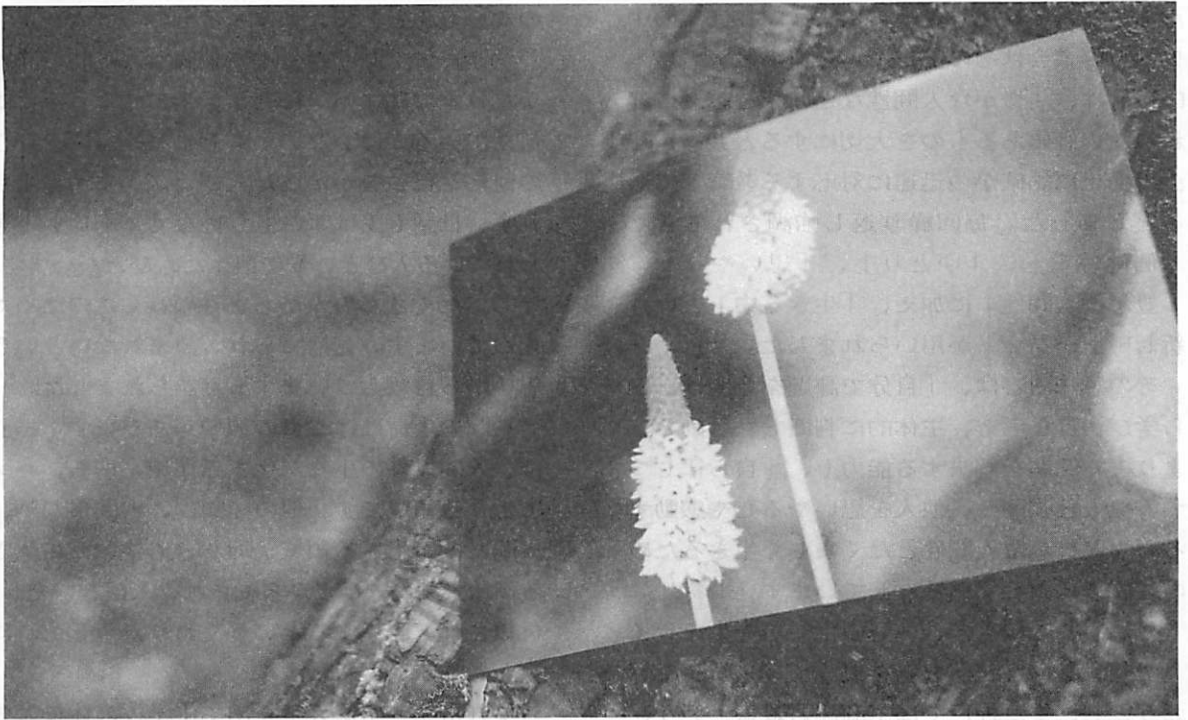


写真 文 珠 幹 夫

Time 時 間

サムエル・ウルマン
作 山 宗 久 訳

父なる時間は諸相を示す

奔放な秋の色は去り 冬の落ちつきは

山なみを 谷を 木々を 霜で冠らせる

時間よ 汝は卓越した錬金術師だ

老いた年は死し

輝く若さのときが来る

ひたいに喜びの知らせをたたえて

古きもの新しきものがめぐり会い

時の流れるままに来たる

争いやもめ事の繰り返しも諸世紀もかえりみず

国々の歴史のページをめくる

時間とは人生の継続か

はたまた永遠の象徴か

サムエル・ウルマン「詩と書翰」

青春とは、心の若さである より



生かされるいのち

名古屋学院院長
YMCA理事長 西村 清

一国の将来は若者の教育にかかっているとよく言われます。近年その教育にさまざまな問題があるとして話題になっています。1996年の中央教育審議会はその答申で、今後の教育の基本的方向は、「豊かな人間性など時代を越えて変わらない価値あるものを大切にすると共に、社会の変化に的確かつ迅速に対応する教育」であるとしました。毎回繰り返し強調されてきた「個性尊重」、「ゆとり」、「思いやり」、「豊かな人間性」に加え、「生きる力」という新しいキーワードが用いられました。

その意味内容は、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」、「自ら律しつつ、他人と強調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」であるとしています。

しかしここに来て、中一の生徒が先生をナイフで刺殺し、中三が警官を襲ってピストルを奪おうとし、また神戸では土師淳君殺害という、かつて経験したことのないような衝撃的な事件が続発しました。

今年の2月の新聞に中教審の試案が載っていて、「悪いことは悪いとしつけよう」、「大人社会のモラルの低下を問直しそう」と、どれももったもた試案ばかりですが、具体的にどうしていくかとなると中教審会長も自信がないと言います。ある新聞では、この難しい教育にあえて共通するものがあるとすれば、子供への愛情で、「愛の反対は憎しみではなく無関心」というマザー・テレサの言葉が教育にも通用すると述べています。

「本当は、自分の方を見てほしいんです。非行も、『皆がわかってくれない』という自己表現の一つ」とある少年院のベテラン院長は指摘

します。自分が大切にされ、自分の命を大切にされた経験を持つ人は、必ず人の命をかけがえないものとして大切にします。

マザー・テレサが日本で講演された時、「豊かな日本では、パンにせよ、米にせよ、それに飢えている人はいないかもしれません。でも心の飢え、孤独をかかえた人びとがいます。愛されず、世話も受けず、もういなくてもいいと思われている人びと、愛に飢えた人びとがいます。そしてたくさんの人があまりの寂しさのために死んでいます。見捨てられ、望まれないという思いから自殺しています」と語られました。

人間の生命には二つの領域があります。一つは、人間以外の生物が生きる領域、即ち、パンで生きる領域です。他の一つは、人間らしく、人間だけが生きる領域、即ち、人格として生きる領域です。人びとから愛され、人びとを愛し、信頼され、信頼するという交わりが生じた時に生かされるいのちです。

星野富弘さんが大学を出て中学校の体操の先生になって2ヶ月後、クラブ活動（器械体操）の指導で、宙返りの模範演技中、あやまって頭から落ち、首の骨を折って、以後首から下が動かなくなってしまうました。9年間の闘病生活、その絶望の日々の中で何度自殺を試みようとしたかわからない、と言います。

母の必死の看病、それ以上に母がその障害を代わってやりたいという愛に支えられ、ついに今では、口に絵筆をくわえ、すばらしい詩にみごとな絵を添える作品を出されています。

星野さんのいのちも、すばらしい作品も、母の愛によって生かされているのです。愛し、信頼し合うことこそ生命を生きることではないでしょうか。

今の季節をとえる言葉として「天高く馬肥ゆる秋」と言う慣用句がありますが、ここ最近の気候は荒れ模様で、この句にぴったりの青空には巡り会わず、中年になって身体ばかりが肥ゆるばかりといった感があります。最近の気候と同様に、現代の子ども達も荒れ模様で、15、6年前に臨床現場で出会う子ども達とは、子ども達の様子が、ずいぶん変化してきました。

馬にちなんだ言葉で、「蹴る馬も乗り手次第」ということわざがあります。馬を観察していると、馬の耳は実によく動きます。それも左の耳と右の耳が、別々にくるくる回っているのです。人間が近づいて背中に乗ると、その耳がぴんと立って、聞き耳を立てています。馬に乗ったことがない、乗馬に慣れていない人間が乗ると、前を向いていた耳が、後ろを向き、馬は暴れて、その人間を背中から落とそうとします。

このことわざは、乗り手の手綱さばきを評することわざですが、乗馬の下手な人間（私もそうですが）は、なぜ馬が暴れるのかがわかりません。人間を乗せる馬は、私達人間のパートナーとしてのルールを教え込まれています。馬は、大変神経質で、臆病な動物だそうです。馬にとっては、馬の性質をよく知らない、新奇な人間が乗ってくるわけですから、たいそう不安でしょう。しかし、乗馬が上手な人間は、馬の性質をよく知っていて、教えられたルールを守ろうとしますので、そのような人間に対しては、馬は、安全なことを知っています。馬も馬なりのルールを持っているのです。馬の耳がよく動くのは、そのお互いのルールを知った人間かどうかを確かめているのです。ルールのわからない人間を

自分の背中に乗せるわけには行かないのでしよう。

子どももこの馬と同じです。子どもの心の中では、大人にとっては正しいことも、場合によっては、大人の勝手な言い分としか受け止められないことがあります。子どもにしてみれば、知っているルールとは違うことになってしまいます。時としてそれは大人の目には暴れ馬のように見

えるかもしれません。実際最近の子ども達は暴れ馬や跳ね馬が多いかもしれません。

しかし、大人は、跳ねたり蹴ったりする馬を乗りこなさなくてはなりません。蹴る馬にもそうなることの原因があるはずですが、最近の子ども達は、青年も含めてですが、一度に総合的に関連づけて解決していく力や欲求不満耐性が弱くなっていると感じます。直感的に、違うルールは拒否したくなります。この年齢だったらこれがわかるし、できるはずに違いないという子どもへの先入観を捨てて、相手の性質をよく理解して、根気よく一つ一つ説明して、お互いのルールを確かめ合って話し合っていくことが、乗り手としての心構え

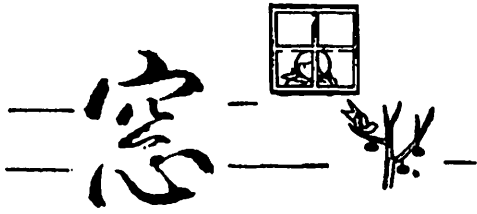
なのだと思います。蹴る馬も乗り手次第で、つまり乗り手の腕を磨くことによって暴れ馬でも乗りこなせるようになるということですが、そうは言っても、実際には馬の耳に念仏だと思わせるような子どもや青年はいますし、そのような時には、馬が合わないのだということを認めて、少し距離を置いてつきあったり、他の人に支援を求めたりすることも必要なことだと思います。

（訓練スタッフ・愛知教育大学助教授）

今時の子ども達と 関わって感じて感じること

下村美刈





障害をもった仲間たちと共に

堀尾 勇夫

1. さふらん生活園

社会福祉法人さふらん会、知的障害者授産施設『さふらん生活園』は30名の利用者（仲間と呼んでいます）と12名の職員、5名の非常勤者により、月曜日から金曜日まで軽作業を中心にクラブ活動、バザー参加等しながら毎日をご過ごしております。

『さふらん生活園』は15年前、日曜学校に来ていた障害をもつ麻子さん俊江さんという2人の生徒から始まりました。中学校を卒業して作業施設へ行く事が決まったとき、麻子さんが「神さま私は教会に行きたいのです、私をいつまでも教会におらせて下さい」と祈っているわが子の姿を見た親からの強い願いに動かされ、今まで関わって来た日本キリスト教団名古屋教会戸田牧師と数人の婦人が中心となり、1983年4月にアパートの一室を借りて無認可作業所を始めました。2年後に10名となり、小規模作業所として認可されました。1987年4月には30名の授産施設さふらん生活園となり、今日に至ったわけです。ここに至るまでに1960年から教会内に障害者をもった親たちの孤独、重荷、さまざまな葛藤で疲れた人たちと共に語り励まし合う場として「共に生きる会」を作り、現在も月1回開催しています。

2. 障害者福祉問題

この15年間に障害者福祉を取りまく環境や社会の目、一般の認識が大きく変化して参りました。1981年国際障害者年を契機にノーマライゼーション理念、即ち障害があっても一人の人間としての人格が尊重され、一般の人びとと同じ権利や機会をもって地域社会の中で主体的な生活が保障される事。このことが広く普及し差別や偏見が減り人びとの理解が深まり、ボランティアという形での

協力者が増えてまいりました。

3. 高齢化とグループホーム

親の高齢化による親なきあとの仲間たちの生活、即ち自立への道を進めることが必要になって来ました。ここでの自立とは、人に世話にならないで生きるのではなく、その人の持ち味を生かしながら必要な支援をうけて生活することです。ここを「グループホーム」と称し、4～5名の仲間が昼間授産所での作業を終えるとわが家に帰るようにグループホームへ帰って共同生活をする。ここには世話人がいてすべての生活を支援しながら、自立に向かっての生活が行われています。

さふらんでは1991年にグループホームふれあいの家「シャローム」、昨年4月に「みなみシャローム」と二つのグループホームを設置、8年の歴史を重ねて来ました。ここでは仲間同志が助け合い、買物、掃除、洗濯等自分たちで出来ることを一つ一つ広げながら、世話人を中心として生きいきとした歩みを続けております。

現在最も必要とされているのは重度の仲間たちのこと、身の回りに人の手を借りる、ことばがなく意志表示も出来ない人にこそグループホームは必要であります。困難を極めます。行政もここには手を付けていないのが現実です。しかし「シャローム」はこれに挑戦し、約1年前から重度者との生活を始めております。世話人の愛情と献身的な努力は仲間たちにも伝わり、一步一步着実に前進していることが実証されつつあり、重度者中心の「第3シャローム」作りの計画が進められております。

4. 大きな支援をうけて

さふらんは多くのボランティアの方がたが作業、食事作り、送迎やグループホームの支援者として参加され、一方には後援会による経済的な支援と相俟って、大きな支えの輪の中で仲間たちが生活できる事に深い感謝を持って毎日の仕事にたずさわっております。

5. 仲間たちと私たち

私共は仲間たちと共にあると思いながら無意識のうちに優位な立場や差別をしたり、時には心に深い傷を負わせることをしていないか。特に言葉

のない仲間への謙虚さを忘れてはならないと、くり返し反省をしなければなりません。

欧米では障害はハンディキャップでなく一つの個性であるという考え方がありますが、私もそう信じたいと思います。どんな時でも仲間たちは優しく温かく美しい心で私共をみつめてくれ、たとえ無理解や失敗があったとしてもゆるしてくれる心の持ち主ばかりです。

私たちは毎朝礼拝を致します。月に一つずつ聖書のことばを決めて、それを毎日となえます。仲間たちは10年の年月の間に多くの聖書のことばを知り、心の中にしっかりと貯えていることでありましょう。悲しい時もうれしい時も神さまは大きな愛で私たちを受けとめ、守って下さることを信じていると思います。私はこの仲間たちから現代の多くの人たちが失いつつある人間の真実を教えられ、平安を与えられながら毎日を過ごせることに喜びと感謝をもって、歩み続けたいと思っております。

6. おわりに

恵まれた『さふらん生活園』を、30名だけで専有してしまって良いだろうか。この思いを持ちつつ、しかし定員の30名以上を迎えることは出来ない。

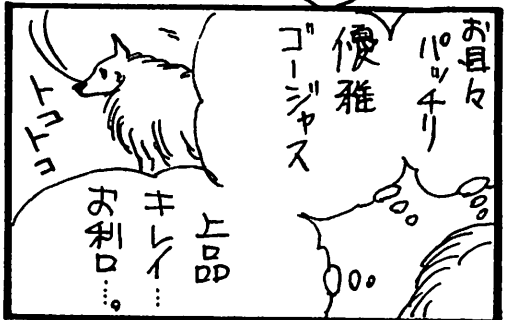
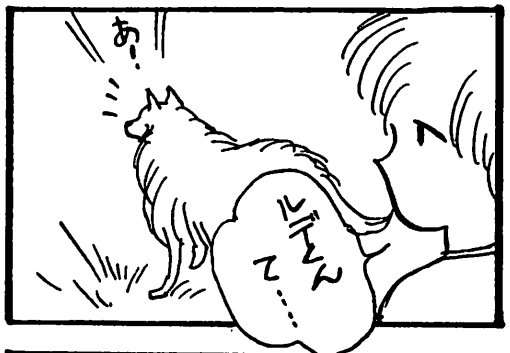
さふらんへ入りたいと望んでおられる人たち、又行き先がなく在宅生活を送っている仲間たち。「共に生きる」仲間たちとの輪を広げることを求められている今日、先ず10名の小規模作業所作りの計画に取り組みたいと思っております。100～150平米の場所探しから始めねばなりません。中区周辺で仲間たちが明るく、のびのびと働ける場所が与えられるよう祈り求めて参りたいと思っております。
(さふらん生活園施設長)

さふらん生活園創設15周年記念冊子を作りました。少々余裕がありますのでご連絡下さればお送り致します。又見学も歓迎いたします。

〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目21-14

さふらん生活園

Tel. 322-3085



ご援助ありがとうございます

1998年5月1日より9月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に
 ご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただいております。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 理事長 長岡 利貞
 財務委員会

【賛助会員A】

河村久子	大村祐子	鎌田蓉子	大塚弥生	田中良子
水野由吉	岩田明	神野重行	水野宣美	神田正春
伊藤美江子	聖霊病院	石嶋和代	志村信夫	志村澄江
秋重殉	榎本久美江	太田喜久雄	専念寺	文珠紀久野
浅野恵美子	田畑洋子	岡田庸男	児島竜雄	西山仁
柿本大真	金澤強	豊田理恵・理彰	田宮祥江	西沢直次
渋沢治子	岩田亮二	福井隆二	高田邦彦	塚田道生
堤登	河合舞	古橋義之	桜井伸光	鈴木武二
寺田諭	西村清・牧子	長岡稔	臼田治子	水野真
若山日名夫	新沼操	市川伸一	山本剛司	近藤宏一郎
服部武雄・富美	長谷川倭子	岡田清子	森川信子	安達恂子
田上文蔵	木島正司	中野悦美	小川義雄・マリ子	
興徳寺佐久間敬止	永沢寺岡島博司	カトリック蟹江教会	株式会社アイトー加藤裕彰	

【賛助会員B】

榎戸佳子	真山成子	安田ミチ子	青山玄枝	秋田あや子
加古りら	浦下桂子	中野公子	近藤直美	岩田百合子
大隅甲吾	板東信吾	宮里及子	横井弘美	加藤幸雄
兼手敬一	水野久通	柳澤幸輝	服部紀仔子	和田英子
和久献二	島津恵子	末田香里	河野登喜子	前田誠一
湯浅康正	奈良恵子	坂本康信	飯田和也	小澤まつ子
松岡朱美	佐竹一子	横地欣也	川尻昇一	小平尾泉
岩田圭子	岩田久夫	小室美奈子	神野啓子	小尾雅彦
杉本英夫	佐藤治郎	山田満弥・久子	青木寿美子	塩田保臣
川本昭二	五藤昭子	高須速夫	安井一郎	安藤宣光
安藤和彦	木戸章子	山野トシミ	戸田ルリ子	須田
遠山千寿子				

点滴

2～3ヶ月程前、仕事が終わって駅の地下街を歩いていた時、心地好い重量感のある若い女性の歌声がひびいていた。“ホラ足下を見てごらん……、ホラ前を見てごらん、あれがあなたの未来……”人波の中、しばし止って歌に聞き入ってしまった。次の日曜日、スーパーの若い店員さんがすぐ見つけて、“これですね”と差し出してくれたCDはKiroro「未来へ」。若い女性が二人、手をつないで、いかにも健康そうに笑っている顔が目飛び込むで来た。さっそく繰り返しテープにとり、車、台所、寝室と持ち歩いていた。家族から苦情が出ない訳がない。その場からちょっとでも離れると、高3の娘はこまめにスイッチを切りにくる。イヤミも云う。音量を落とせとも云う。が、姑達の耳が遠い事をいいことに、しつこく聞いている。そのかいあって、一ヶ月程で歌えるようになったが、仕事中でもつい口からメロディーが出てきてしまうのが難点といえば難点。

この一年、自分を取巻く事情の変化に身も心も対応しきれず自分を見失いかけていた矢先のこの歌、どれ程私を励ましてくれた事か。「未来」という言葉、何故か宇宙を連想させてくれてもともと好きな言葉だ。宇宙のスケールでみれば、その一瞬のまばたきにも満たない人間の一生、どう生きるのか。そう考えていると、無限の彼方にゆっくり解き放たれていく自分を感じる……。(T.S.)

【賛助会員C】

多和田 いみ子	田中 節子	大竹 文子	原 久 枝	松 田 昭
山田 敦代	坂 節子	鈴村 美登里	足立 克己	小川 邦泰
水野 寿子	林 郁子	小川 祐美子	服部 由美	松村 正義
深谷 愛子	加藤 みゆき	相馬 康人	平野 隆市	神尾 初子
松村 睦子	見木 靖美	樋口 次雄	中辻 三千代	柴田 孝代
加藤 登茂子	水野 圭子	安田 武男	戸村 新子	早川 みどり
平野 昌子	岩佐 志子	北條 献示	野村 紘子	山本 邦男
矢野 和枝	矢野 法静	武藤 智代	小川 幸江	伊藤 真理子
兼田 元雄	矢野 枝	水野 信子	水上 康博	安間 良雄
大島 節子	森下 眸潤	川村 弘子	田中 順子	矢敷 好子
中谷 塩子	桐山 幹枝	片山 悦子	鈴木 浩之	鈴木 加寿子
福岡 正正	今泉 幹子	坂浦 正輝	石原 道子	富田 茂
鈴木 キヨ	上野 美和	渡辺 香代子	菅 和世	青島 美代子
小川 浩	五十君	林 温江	R・A・メリット	

日本基督教団春日井教会婦人会

日本基督教団南山教会婦人会

【寄付金】

内川 正邦	栄冠 幼稚園	長岡 利貞	横 浄 信	松原 俊之
片岡 みち枝	谷口 江利子	小栗 和子	小知 和優	倉知 佐知子
秋田 あや子	中川 鋪子	堤 藤みゆき	杉浦 ます子	深津 貞子
風岡 良子	市川 真康	加藤 恒子	山下 タカ子	安原 律子
西田 スエ子	四日 薫	菅沼 恒子	西野 三緒子	小野 孝児
藤田 嘉美	小島 丈夫	鈴木 富子	豊田 江美	鶴飼 千鶴子
井沢 陽子	武保 輝彦	小木 曾健次	大西 成長	加藤 暢夫
梶浦 和由	岩間 哲郎	下村 明子	寛 昌善	鈴木 のぞみ
野口 博之	水野 信義	杉藤 順平	木本 精之助	朝倉 夏雄・建子
柘植 幹夫	岡戸 信直	鈴木 朋子	山本 澄子	吉田 聖
吉野 宗彦	五藤 昭子	内柱 綾子	長野 信一	上田 きよ
木島 知也	梶原 寿	石川 貢司郎・誠人		

光ヶ丘女子高等学校生徒会

愛知西地区教会婦人会連合

聖霊奉侍布教修道女会

名古屋ワイズメンズクラブ

幼き聖マリア修道会

日本福音ルーテル希望教会

日本基督教団鳴海教会婦人会

小牧カトリック教会

【賛助寄付】

崇覚寺水谷巍	大畑開発株式会社	矢作建設工業株式会社	株式会社吉田SKT
中部メルテック株式会社	NTT東海移動通信網株式会社	東山遊園株式会社	
薬師寺柿本大真			

【基金募金】

薬師寺柿本大真

【法人寄付金】

NTT東海移動通信網株式会社

【会費（個人）】

木本 精之助 豊田 舜子

年末・クリスマス特別寄付のお願い

本年も間もなく、年末・クリスマスの季節を迎えよう
とじています。例年この季節に、特に「いのちの電話」
の活動のために、特別寄付金を募っております。

今年もよろしくご協力をお願い致します。

送金先 郵便振替口座 00810-8-53758

東海銀行大津町支店（普） 477029

名 義 社会福祉法人 愛知いのちの電話協会

思春期をのりこえる - どう理解し、どうかかわったらよいか -

講師 成田善弘先生 梶山女学園大学人間関係学部教授

日時 1998年11月8日(日) 14:00~16:00

場所 名古屋女子文化短期大学NFCC A館3Fアッセンブリーホール (地下鉄東山線新栄町より徒歩1分 2番出口北へ)

入場無料

かんぼ(簡易保険加入者協会)といのちの電話の共同企画により心の健康増進セミナーが全国的に開催されます。

愛知いのちの電話協会日誌

- 4月1日 ベルの会
- 6日 訓練委員会
- 8日 県共同募金会1998年度配分通知
- 15日 総務委員会
- 24日 財務委員会
- 5月1日 ベルの会
- 27日 理事会・評議員会
- 28日 総務委員会
- 29日 日本いのちの電話連盟総会
- 6月2日 ベルの会
- 15日 訓練委員会
- 19日 財務委員会
- 25日 総務委員会
- 7月4日 フォーラム
- 13日 訓練委員会
- 16日 総務委員会
- 31日 ベルの会
- 8月19日 財務委員会
- 27日 総務委員会
- 9月21日 総務委員会
- 22日 訓練委員会
- 22日~23日 連盟ディレクター会議
- 24日 ベルの会

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員 (年間1口)
A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせは...

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
名古屋いのちの電話
事務局 ☎ 971-5181

NTTドコモ東海より [#9556] で

携帯電話業界大手の、NTT東海移動通信網株式会社 通称NTTドコモ東海の携帯電話から「#9556」をダイヤルするだけで名古屋いのちの電話052-971-4343につながる情報ダイヤルのサービスが9月1日から始まりました。愛知、三重両県下からの電話は名古屋いのちの電話に、岐阜県下からは岐阜いのちの電話に、静岡県下からは浜松いのちの電話につながるようになります。同社はこれを機会に法人賛助会員として入会頂き、又同社の契約200万台突破を記念して、50万円の特別寄付金を寄せて頂きました。感謝。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1998年晩秋

名古屋いのちの電話

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

1998年11月1日発行

発行人 長岡利貞

編集人 広報委員会